

 住友金属鉱山株式会社

証券コード 5713

第89期 報告書

2013年4月1日－2014年3月31日

株主のみなさまへ





株主のみなさまには、
平素より格別のご支援を賜り、
厚くお礼申し上げます。

ここに、当社第89期
(2013年4月1日から2014年3月31日まで)
のご報告を申し上げます。

代表取締役社長

中里 佳明

第89期連結決算の 概要について

**金属価格は下落しましたが、円安による好転などにより
前期並みの経常利益となりました。**

当期の世界経済は、米国は堅調に推移し、欧州では景気が下げ止まる状況となりました。また、中国をはじめとする新興国では成長が安定化しました。

非鉄金属価格は、銅価格は安定して推移していましたが、期末にかけて急落しました。一方でニッケル価格は下落傾向が続いていましたが、期末にかけてインドネシアが未加工鉱石の輸出を禁止したことによる供給面の懸念から、急速に上昇しました。金価格は投機資金の流出などにより下落傾向が続いていましたが、期末にかけて下げ止まりの動きがみられました。エレクトロニクス業界では、スマートフォン向け電子部品などが好調な状況を維持しました。

このような状況のなか、当社の連結売上高は、主に円安により前期比3%増加し、8,305億円となりました。営業利益は金価格とニッケル価格の下落により、前期比21%減少の754億円となりました。一方で経常利益では、主に海外鉱山会社の持分法投資利益の好転により、ほぼ前期並みの1,144億円となりました。

目次

- 1 Top Message
- 5 連結業績ハイライト
- 7 [特集]SMMとメタルのちから
材料事業
- 10 トピックス
- 11 連結財務諸表(要約)
- 13 会社情報
- 13 株式状況
- 14 株式メモ

連結業績ハイライト

売上高

8,305 億円

経常利益

1,144 億円

当期純利益

803 億円

年間1株当たり配当金

37 円(期末20円)

2012年中期経営計画(12中計) の進捗状況

継続的な成長戦略の推進により、「世界の非鉄リーダー」
「日本のエクセレントカンパニー」をめざします。

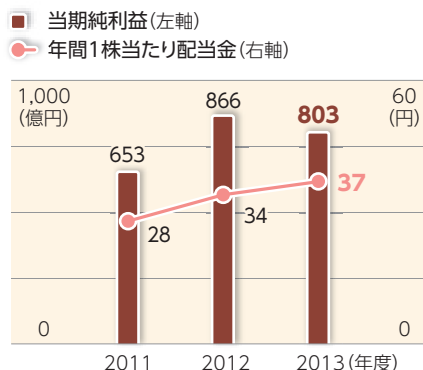
2013年度は12中計で掲げた長期ビジョンでめざす姿に向け、各部門で進捗がありました。

まず資源セグメントでは、セロベルデ銅鉱山の増産プロジェクトへの参画を正式に決定しました。本プロジェクトは2016年の完成を予定しています。また、2013年1月に参画を決定したモレンシー銅鉱山の増産プロジェクトは順調に進捗しており、2014年の完成を予定しています。同じく本年の立ち上げを予定しているシエラゴルダプロジェクトと合わせ、銅の年間権益分生産量が大きく増加することが見込まれています。

製錬セグメントでは、2013年後半からタガニートプロジェクトが生産を開始し、ニッケル年産10万トン体制がスタートしました。2014年度は、タガニート産中間原料を受け入れるニッケル工場において増産を予定しており、利益

に貢献することを見込んでいます。また、播磨事業所で進めてきた硫酸ニッケルの起業も完成し、2014年度はフル生産を計画しています。

材料セグメントの利益は、前年度33億円から、2013年度は111億円へと大きく好転しました。ハイブリッド車や電気自動車向けの電池材料の販売が大きく伸びたほか、スマートフォンやタブレットPCに使われる電子部品材料も販売が好調でした。一方で、リードフレームの統合会社が発足したほか、成長が見込めない製品からの撤退など事業構造の転換をさらに進めています。



ニッケル工場(愛媛県)

CSRの取り組み

企業経営にあたっては、成長戦略と並んでCSRの考えに基づいた経営基盤の構築が重要であると考えています。

お客様に販売する製品における品質問題、工場周辺の環境への影響などステークホルダーのみなさまにご迷惑をかけることはあってはならないことです。こうしたことを起こさないため、会社として常に高い意識を持ち、リスクマネジメントや環境マネジメントの取り組みを確実に行っていきます。

人材育成では、国籍や性別を問わず、多様な価値観を尊重していくことが大切だと考えています。ここ数年で当社事業は世界的に大きく広がっており、国境をこえて人材を育てていくことが必要になってきています。「事業は人なり」

という住友の精神を受け継ぎ、当社の最大の強みである技術者、またそれを支える事務部門の人材をさらに強化していきます。

当社では「本業を通じた社会への貢献」を行っていくことが最も重要なCSRと位置づけており、これを着実に実践していきます。



青梅事業所(東京都)



安全活動の徹底

▶ 配当方針について

**期末の配当金は
20円とさせていただきます。**

12中計期間の配当性向は25%以上とし、業績に連動した配当を実施する方針としています。2013年度の配当金は37円(中間17円、期末20円)とさせていただきます、配当性向は25.5%となりました。

また、年間37円は当社としてはこれまでで最も多い配当となります。

▶ 株主のみなさまへの メッセージ

**引き続き成長戦略の推進により
企業価値の向上を図っていきます。**

2012年末からの円安傾向は当社業績にとって大きな追い風となっていますが、一方で新興国経済の見通しと、世界経済との連動が強い非鉄金属市況は不透明な状況が続いています。こうしたなかにおいても、12中計で掲げた戦略を推進し、着実に達成していくことが重要と考えています。

株主のみなさまにおかれましては、引き続き変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



シエラゴルダプロジェクト(チリ)



播磨事業所硫酸ニッケル生産設備(兵庫県)



タガニートHPALニッケル社(フィリピン)

▶ 資源セグメント

当期業績概要について

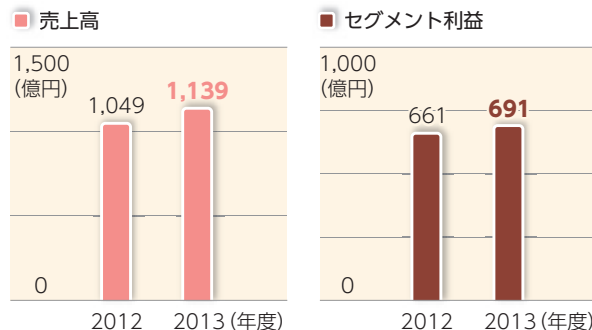
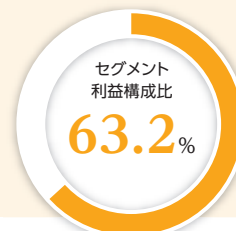
- 菱刈鉱山の操業は順調に推移しました。
- ポゴ金鉱山では、鉱石の品位が回復したことにより生産量は前期と比べ増加しました。
- 海外銅鉱山では、モレンシー銅鉱山の生産は順調に推移しました。カンデラリア銅鉱山では品位が回復したことにより生産量が増加しました。セロベルデ銅鉱山の生産量は鉱石品位の低下の影響などにより減少しました。

今後の展望

- 銅は、シエラゴルダプロジェクトを引き続き推進していきます。また、モレンシー銅鉱山の増産プロジェクトは2014年後半の完成を予定しています。
- 金では、菱刈鉱山の2014年度の実産量は、2013年度比0.5トン減少の6.5トンを計画しています。
- 引き続き、操業中の鉱山の周辺探鉱を推進するとともに、開発案件への参入を検討していきます。

セグメント利益

690億63百万円



注) セグメント間の取引が発生しており、当社の売上高として公表している数値はこれを消去した

▶ 製錬セグメント

当期業績概要について

- 銅製錬では、東予工場で2年に1度の定期修繕を実施したことから、前期と比べ生産量が減少しました。
- ニッケル製錬では、ニッケル工場で生産能力増強起業が完成したことから、生産量は大きく増加しました。またコーラルベイニッケル社の操業は順調に推移しました。

今後の展望

- 銅製錬では、引き続きコスト競争力の強化を図っていきます。
- ニッケル製錬では、ニッケル工場の増産起業が完成し、タガニートプロジェクトも本格的に稼働を開始しました。2014年度はこれを受けて、電気ニッケルの生産量を前期比約8千トン増の5万8千トンとすることを計画しています。

セグメント利益

291.04 億 百万円



売上高



セグメント利益



▶ 材料セグメント

当期業績概要について

- 電池材料は、ハイブリッド自動車および電気自動車向けの需要が好調だったことから、販売が増加しました。
- 半導体デバイスに広く用いられるリードフレーム、タブレット端末やスマートフォン向けに使用されるペーストの需要が好調でした。

今後の展望

- 電池材料は、電気自動車向けニッケル酸リチウムの増産を進めていきます。
- 今後成長が見込まれる環境・エネルギー分野でのさまざまな材料開発に注力していきます。

セグメント利益

110.72 億 百万円



売上高



セグメント利益



外部売上高の合計です。各事業の売上高、セグメント利益はセグメント間取引を消去する前の金額を表記しております。セグメント利益構成比は、3セグメント合計に対する比率を表記しております。

材料事業

資源事業・製錬事業とならぶSMMの3つのコアビジネスのひとつ、材料事業。12中計では「環境・エネルギー分野」での成長をターゲットとしており、ハイブリッド自動車や電気自動車向けの電池材料など需要の伸びが期待できる製品への投資を進めています。今回は材料事業についてご紹介いたします。

材料事業の主要拠点

磯浦工場 (愛媛県新居浜市)

磯浦工場は、1987年に高機能金属化成品の製造を目的として発足しました。現在はハイブリッド自動車や電気自動車向けの電池材料が主要製品となっています。また、隣接する電池研究所と連携し、次世代の自動車に使われる電池材料の開発も進めています。



青梅事業所 (東京都青梅市)

青梅事業所は、1967年に開設され、当時は半導体に使われる材料の生産を行っていました。現在はスマートフォンやタブレット端末の部品に多く使われる、厚膜ペーストや薄膜材料を主に生産しています。



【 電池材料 】

電池材料の主力製品は水酸化ニッケルとニッケル酸リチウムです。

水酸化ニッケルはハイブリッド自動車のニッケル水素電池に使われており、主要なお客様はトヨタ自動車株式会社です。

またニッケル酸リチウムは高容量のリチウムイオン電池に使用されており、主要なお客様は

パナソニック株式会社です。この電池は、米国の電気自動車メーカーである、テスラモーターズ社が生産する電気自動車に使用されています。

ニッケル酸リチウムの生産能力を、これまでの月産300トンから850トンに拡張する工事を進めています。



水酸化ニッケル



ニッケル酸リチウム



テスラ モデルS
(写真提供:テスラモーターズ社)

【 厚膜ペースト 】

青梅事業所の主要製品であるニッケルペーストは、有機溶剤とニッケル粉末を混練してインク状にしたものです。電子部品である積層セラミックコンデンサの材料として使われており、最終的にはスマートフォンやタブレット端末などに多数使用されます。



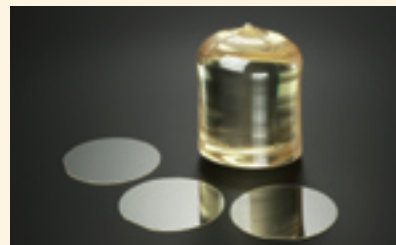
厚膜ペースト

材料事業の 主要製品



【 結晶材料 】

住鋁国富電子(株)で生産するニオブ酸リチウム、タンタル酸リチウムは、携帯端末に使用される、不要な電波を取り除く働きをもつSAWフィルターに使われています。スマートフォンの通信容量の増大により、需要が大きく伸びています。



タンタル酸リチウム

材料事業の原料

電池材料や厚膜ペーストのように、材料事業の製品には当社が強みをもつ金属製品であるニッケルが多く使われています。ここでは、ニッケル原料が電池材料になるまでをご紹介します。

製錬技術



タガニートHPALニッケル社

中間原料:MS

当社子会社である、コーラルベイニッケル社とタガニートHPALニッケル社(いずれもフィリピン)では、品位約1%のニッケル鉱石からHPAL(High Pressure Acid Leach: 高圧硫酸浸出)技術を用いてニッケル品位約60%のMS(ニッケルコバルト混合硫化物)を生産しています。タガニートHPALは2014年に本格稼働を開始しました。

精製技術



ニッケル工場



播磨事業所

ニッケル化成品:硫酸ニッケル

フィリピンで生産されたMSは中間原料としてニッケル工場(愛媛県)と播磨事業所(兵庫県)に運ばれます。ニッケル工場の主力製品は電気ニッケルですが、化成品である硫酸ニッケルも生産しています。また播磨事業所では2013年に、新たな硫酸ニッケルの生産プラントが稼働を開始しました。

製品へ



磯浦工場

電池材料:水酸化ニッケル・ニッケル酸リチウム

磯浦工場では硫酸ニッケルは焼結など各工程を経て、最終的にお客様が必要とする形の電池材料へと姿を変えます。

トピックス 住友金属鉱山の今がわかる、注目トピックスを時系列にまとめてご紹介します。

2013年 10月 11月 12月 2014 1月 2月 3月 4月

2013年 4月～9月期 注目トピックス

6月 6月 7月 9月 9月

ニッケル鉱石中の鉄分資源化技術の開発
アラスカ大学資源工学寄付基金への寄付
リードフレーム事業および伸銅事業の各統合会社発足
フィリピン・タガニートプロジェクトの開所式の実施
二次電池用正極材料（ニッケル酸リチウム）への増産投資の実施

セロベルデ銅鉱山 増産プロジェクトを承認

当社は、権益を保有するセロベルデ銅鉱山（ペルー）で進められている増産プロジェクトの実施を承認しました。

セロベルデ鉱山は米国最大手の産銅会社であるフリーポート・マクモラン・カンパニー・アンド・ゴールド社が運営しており、当社は2004年に資本参加について基本合意しています。

今回の増産プロジェクトでは年間銅生産量を30万トンから50万トンに拡張する計画です。フル生産開始は2016年第1四半期の予定です。

当社は長期ビジョンとして銅の権益年間生産量30万トンをめざしており、本プロジェクトはその達成に寄与することになります。



2年連続で 「なでしこ銘柄」に選定

当社は2014年3月3日に発表された「なでしこ銘柄」に、昨年に引き続き2年連続で選定されました。

経済産業省と東京証券取引所は共同で、女性活躍推進に優れた上場企業「なでしこ銘柄」を選定し発表しています。これは女性活躍推進に優れた上場企業を「中長期の企業価値向上」を重視する投資家に魅力ある銘柄として紹介し、各社への投資や各社での取り組みを加速化することを狙いとしています。

当社は2012年7月に人事部内に「女性活躍支援グループ」を新設し、様々な活動を開始しています。当社はこれからも企業としての競争力を高め持続的発展をめざすために、女性を含め多様な従業員がより働きやすい職場になるよう、取り組みを進めていきます。



連結財務諸表(要約)

当期の売上高は、円安により販売価格が上昇したことにより、前期と比べ220億円増加し8,305億円となりました。

経常利益は、金属価格の下落があったものの、円安および持分法投資利益の好転により、前期と比べ6億円減少の1,144億円となりました。

当期純利益は、前期に発生した関係会社の持分変動に伴う特別利益が今期は発生しなかったことにより、前期と比べ64億円減少し803億円となりました。

売上高(前期比 2.7%増)

8,305 億円

経常利益(前期比 0.5%減)

1,144 億円

▶ 連結損益計算書

	当 期 平成25年4月1日～ 平成26年3月31日	前 期 平成24年4月1日～ 平成25年3月31日
(単位：百万円)		
売上高	830,546	808,540
売上原価	705,724	667,890
売上総利益	124,822	140,650
販売費及び一般管理費	49,404	44,865
営業利益	75,418	95,785
営業外収益	45,582	28,469
営業外費用	6,648	9,220
経常利益	114,352	115,034
特別利益	1,286	9,389
特別損失	4,632	1,968
税金等調整前当期純利益	111,006	122,455
法人税等合計	23,623	28,905
少数株主利益	7,125	6,910
当期純利益	80,258	86,640

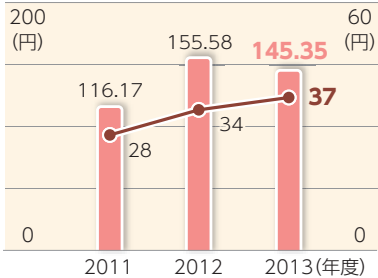
▶ 連結キャッシュ・フロー計算書

	当 期 平成25年4月1日～ 平成26年3月31日	前 期 平成24年4月1日～ 平成25年3月31日
(単位：百万円)		
営業活動によるキャッシュ・フロー	80,014	114,665
投資活動によるキャッシュ・フロー	△126,937	△88,745
財務活動によるキャッシュ・フロー	81	21,549
現金及び現金同等物に係る換算差額	9,715	6,514
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△37,127	53,983
現金及び現金同等物の期首残高	239,691	185,708
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	19	—
現金及び現金同等物の期末残高	202,583	239,691

■ 売上高(左軸)
● 経常利益(右軸)



■ 1株当たり純利益(左軸)
● 1株当たり配当金(右軸)



当期末の資産は、タガニートプロジェクトおよびシエラゴルダ銅鉱山への投資による増加、また円安による海外資産の評価額増加により、前期末と比べて2,212億円増加し1兆5,724億円となりました。

負債についてはプロジェクト資金として借入金が増加したことにより、前期末と比べて467億円増加し5,533億円となりました。

純資産については当期純利益の積み上げにより自己資本が増加したほか、円安の影響によりその他の包括利益が大きく増加しています。

自己資本比率は、58.1%と健全な水準を維持しています。

総資産(前期末比 16.4%増)

15,724億円

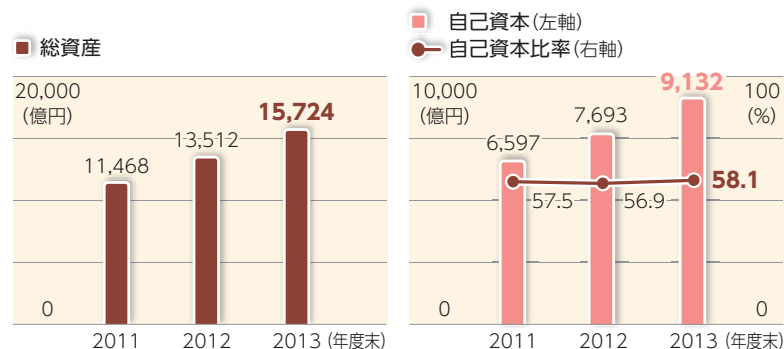
自己資本(前期末比 18.7%増)

9,132億円

▶ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当 期 末 平成26年3月31日	前 期 末 平成25年3月31日
資産の部		
流動資産	537,961	550,252
固定資産	1,034,406	800,901
有形固定資産	415,773	342,067
無形固定資産	11,097	10,381
投資その他の資産	607,536	448,453
資産合計	1,572,367	1,351,153
負債の部		
流動負債	223,763	211,386
固定負債	329,551	295,220
負債合計	553,314	506,606
純資産の部		
株主資本	852,150	792,051
資本金	93,242	93,242
資本剰余金	86,062	86,062
利益剰余金	704,824	644,642
自己株式	△31,978	△31,895
その他の包括利益累計額	61,021	△22,801
少数株主持分	105,882	75,297
純資産合計	1,019,053	844,547
負債純資産合計	1,572,367	1,351,153



会社情報

▶ 会社概要 (2014年3月31日現在)

商号 住友金属鉱山株式会社
Sumitomo Metal Mining Co.,Ltd.
本社所在地 東京都港区新橋五丁目11番3号
創業 天正18年(1590年)
設立 昭和25年(1950年)
資本金 932億円
従業員数 連結:8,628名 単独:2,098名

▶ 取締役および監査役

(2014年6月23日現在)

取締役会長 家守 伸正*
取締役社長 中里 佳明*
取締役 久保田 毅
土田 直行
緒方 幹信
後根 則文
野崎 明
社外取締役 牛嶋 勉
常任監査役 (常勤) 中重 一雄
監査役 (常勤) 佐藤 元
社外監査役 三和 彦幸
野崎 茂

▶ 執行役員

(2014年6月23日現在)

社長 中里 佳明
専務執行役員 久保田 毅
土田 直行
常務執行役員 伊藤 敬
橋本 安司
緒方 幹信
飯島 亨
後根 則文
黒川 晴正
執行役員 杉浦 卓
小田 浩久
角谷 博樹
浅井 宏行
山際 雅幸
森本 雅裕
野崎 明
今村 正樹
朝日 弘
井手上 敦
猪野 和志

注 *印は、代表取締役です。

株式状況

▶ 株式の状況 (2014年3月31日現在)

発行可能株式総数 1,000,000,000株
発行済株式総数 581,628,031株
株主数 51,067名

▶ 株式分布状況 (2014年3月31日現在)

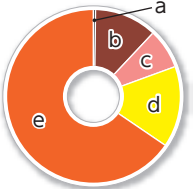
所有者別の状況

区分	所有株数(株)	(%)
a 金融機関	165,070,959	28.38
b 証券会社	16,951,076	2.91
c その他の法人	76,999,849	13.24
d 外国法人等	190,368,072	32.73
e 個人その他	102,765,287	17.67
f 自己名義株式	29,472,788	5.07



所有株式数別の状況

区分	所有株数(株)	(%)
a 1~999	2,189,190	0.37
b 1,000~9,999	67,559,813	11.62
c 10,000~99,999	43,197,355	7.43
d 100,000~999,999	87,724,935	15.08
e 1,000,000~	380,956,738	65.50



株式メモ

▶ 事業年度

毎年4月1日から翌年3月31日まで

▶ 株主総会

定時株主総会 毎年6月

臨時株主総会 必要の都度

▶ 基準日

定時株主総会 3月31日

期末配当 3月31日

中間配当 9月30日

▶ 株主名簿管理人および特別口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社

▶ 株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先)

〒168-0063

東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)

0120-782-031

▶ 公告掲載方法

電子公告とする。ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載する。

株式に関するお届けおよびご照会先

証券会社に口座を開設されている株主様は口座のある証券会社宛に、特別口座に口座がある株主様は特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社証券代行部までお問い合わせさせていただきますようお願いいたします。

単元未満株式買取および買増のご請求について

株主様がご所有の単元未満株式(1～999株)を当社が買取らせていただく制度がございます。また、株主様がご所有の単元未満株式を単元株式とするため、必要な数の株式を買増する制度がございます。単元未満株式の買取および買増請求につきましては、上記「株式に関するお届けおよびご照会先」にお問い合わせのうえ、お手続きをお願いいたします。

配当金のお受け取り方法について

配当金のお受け取りにつきましては、ゆうちょ銀行または郵便局の窓口において配当金領収証と引換えにお受け取りいただく方法のほかに、より安全で確実な方法として、ご指定の銀行口座またはゆうちょ銀行の貯金口座へ継続的にお振り込みする方法がございます。また、証券会社に口座を開設されている場合は、証券総合口座等へのお振り込みも可能です。お振り込みをご希望される場合は、上記「株式に関するお届けおよびご照会先」にお問い合わせのうえ、お手続きをお願いいたします。

当社ホームページのご案内

ホームページでも、投資家情報をご紹介しますので、ぜひご覧ください。

<http://www.smm.co.jp/>



当冊子についてのお問合せ先

 **住友金属鉱山株式会社** 広報IR部

〒105-8716 東京都港区新橋5丁目11番3号
TEL.03-3436-7705 FAX.03-3434-2215